

特別損失の計上と通期業績予想の修正に関するお知らせ 【補足資料】

2025年5月15日

(証券コード：7747 東証プライム、名証プレミア)

2025年6月期 通期業績予想の修正について

中期経営計画の売上高・営業利益率の目標を1年前倒しにて実現する予想
売上高・営業利益・経常利益 上方修正 : 需要が堅調に推移、売上総利益率の改善 など
当期純利益 下方修正 : 減損損失などの特別損失の発生

【修正の理由】

<売上高・営業利益・経常利益/好調に推移した理由>

- 売上高：メディカル事業を中心に、国内海外共に需要が堅調であること、かつ為替動向も後押し
- 売上総利益：生産性の改善に伴う売上総利益率の大幅改善 65.1%⇒67.2%
 - なお、当期中においては米国拠点において安全在庫の保有があるため、米国関税影響は生じない見込み
- SGA：4Qにおいて従業員向けの決算賞与の支給を予定、決算賞与を除いては計画をやや下回る着地
- 営業利益：為替動向による影響はほぼ無く、上記要因(売上高増加、売上総利益率増加)に基づき大幅に増加
- 営業外損益：補助金収入の増加、為替差損の増加

<当期純利益/減少理由>

- 特別損失の発生
 - 減損損失の発生 など (3ページ以降ご参照)

<配当金>

- 配当金については、当初予定額の維持(24.23円)、配当性向58.2%予想

為替 (単位:円)	US\$	EURO	中国元	BAHT
25/6期 修正後計画	148.61	161.88	20.49	4.38
3Q累計実績	151.48	162.50	20.98	4.42
4Q予算前提	140.00	160.00	19.00	4.25
25/6期 旧計画	145.00	160.00	20.50	4.17
24/6期 実績	149.39	161.48	20.64	4.17

2025年6月期 通期業績見通し

	2024年6月期 実績		2025年6月期 旧計画		2025年6月期 修正後計画					
	金額 (百万円)	構成比 (%)	金額 (百万円)	構成比 (%)	金額 (百万円)	構成比 (%)	前期比		旧計画比	
							増減額 (百万円)	増減率 (%)	増減額 (百万円)	増減率 (%)
売上高	107,547	100.0	116,737	100.0	119,160	100.0	+11,613	+10.8	+2,422	+2.1
売上総利益	69,053	64.2	76,032	65.1	80,056	67.2	+11,003	+15.9	+4,024	+5.3
のれん償却額等を除く 営業利益	24,168	22.5	27,170	23.3	30,476	25.6	+6,308	+26.1	+3,305	+12.2
営業利益	22,135	20.6	25,210	21.6	28,859	24.2	+6,723	+30.4	+3,648	+14.5
経常利益	21,968	20.4	25,528	21.9	28,987	24.3	+7,019	+32.0	+3,458	+13.5
親会社株主に帰属する 当期純利益	15,808	14.7	18,803	16.1	11,314	9.5	△4,493	△28.4	△7,488	△39.8
EPS (円)	58.20	-	69.22	-	41.66	-	△16.54	△28.4	△27.56	△39.8 ※
EBITDA	31,856	29.6	35,391	30.3	38,682	32.5	+6,826	+21.4	+3,291	+9.3

※ EPSは2025年6月期第3四半期累計の期中平均株式数を用いて計算しています

為替 (単位: 円)	US\$	EURO	中国元	BAHT
25/6期 修正後計画	148.61	161.88	20.49	4.38
25/6期 旧計画	145.00	160.00	20.50	4.17
24/6期 実績	149.39	161.48	20.64	4.17

特別損失の計上、通期業績予想の修正について

2025年6月期(3Q)において特別損失（のれんの減損損失など）を計上するとともに、2024年8月14日に公表した連結業績予想を修正

判断に至った経緯

- **新中期経営計画(2025年8月開示予定)の策定を進めている過程で、新規分野などに対する将来見込みについて精度を高めた検証を行ったこと**
- **米国関税の発生をきっかけとしたグローバルリスクの高まりを考慮**
- **新中期経営計画において新たな成長戦略を示す前提として整理しておきたい**

十分な対応をすることについて取締役会にて審議し、判断

今後について

- 当社におけるメディカル事業は 中長期的に安定した成長が期待できる事業
 - 売上成長が高利益に繋がる収益基盤を更に強化し、利益を投資に回して成長を加速させるサイクルの実現については、今後も目指していくことに変更なし
 - 事業検討の精度やPMI(Post Merger Integration/買収後統合プロセス)の実行力を高めるための事業体制の強化、ガバナンスの強化などを進め、組織の機能と体制をより充実させていく

特別損失の内容

科目	第3四半期 実績	第4四半期 予定	計
減損損失	9,300	-	9,300
関係会社株式評価損	210	-	210
関係会社貸倒引当金繰入額	461	-	461
投資有価証券評価損	759	-	759
合計	10,730	-	10,730

のれんの減損損失について 全体金額と内訳

会社名	M&Aの時期	取得価額	概要	減損金額
朝日サージカルロボティクス (旧 A-Traction)	2021年7月	2,680百万円	外科手術支援ロボットの 開発・製造	1,986百万円
Pathways Medical Corporation ^{※1}	2021年7月	30,000千USD (3,489百万円)	ガイドワイヤーなどの表面に 形成が可能な電気配線技術	3,679百万円 ^{※2}
Rev.1 Engineering, Inc. ^{※1}	2021年7月	27,010千USD (2,986百万円)	医療機器の設計開発の受託	1,642百万円
ASAHI Medical Technologies, Inc. (旧RetroVascular, Inc.)	2018年7月	26,868千USD (2,971百万円)	プラズマ・エネルギーに関する 技術	1,991百万円
4社合計		12,128百万円		9,300百万円

※1：取得価格については、各取得時のレート、減損金額は第3四半期累計期間におけるレート(1ドル=151.48円)により為替換算しております

※2：為替換算の影響により、取得価格を上回っております

朝日サージカルロボティクス社（ASR社：旧A-Traction社）

外科手術支援ロボットANSURを開発・製造

会社概要

2021年7月
M&A

- 【社名】株式会社A-Traction
（国立がん研究センター認定ベンチャー）
- 【事業】腹腔鏡手術支援ロボット開発
- 【設立】2015年8月7日

技術

ロボティクス技術⇒ANSUR開発

会社の特徴

- ロボット開発・製造に係る各分野のエキスパート集団
年齢（20代～60代）、バックグラウンドも多岐にわたる
- 開発だけでなく製造まで一貫対応が可能
- 医療ベンチャーならではのスピード感



外科手術支援ロボット

ANSUR

減損損失の発生に至った経緯・内容

- ANSUR ビジネスの事業計画を見直す過程において、買収時の計画から事業進捗が乖離⇒減損処理を行うことを判断
 - 薬事認可の都合⇒販売開始時期が当初（2023年）より1年遅延
 - 2024年6月期より現在までに3台販売
 - 病院での臨床使用で、本体には大きな問題がないものの、使用過程で必要な附随消耗品に関する様々な改良要望が生じており、現在対応中
 - ⇒ 改善対応を行う中で、販売後においても現場ニーズに対応するための改良改善が継続することの実感と、それに都度対応していくことによる負荷の継続の現実性を見据え、将来販売台数を見直したところ、買収時の事業計画からの乖離が発覚

朝日サージカルロボティクス社（ASR社：旧A-Traction社）

課題分析と今後の対応

外科手術支援ロボット ANSUR



現場ニーズあり

- ・学会などでの反響も高い
- ・病院などから引き合いあり

【医師を取り巻く環境】



外科医不足なども含めた現場課題を解決できるロボットであり、社会的必要性は高い

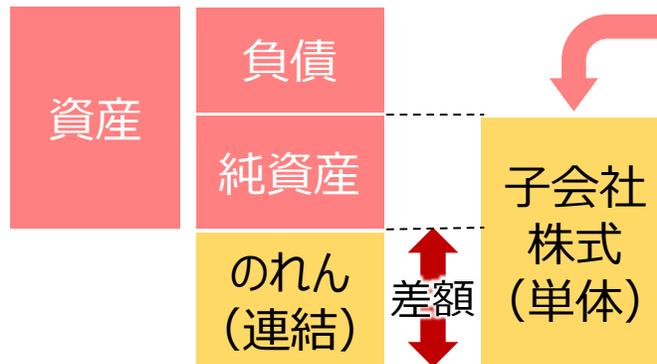
⇒ 今後もビジネスを継続し、医療現場への浸透を進めていく



ANSUR使用で



買収対象会社財務諸表



買収対象会社事業計画

割引現在価値合計



Pathways Medical Corporation社

ガイドワイヤーなどの表面に形成が可能な電気配線に関する独自の技術を保有

会社概要

2021年7月
M&A

【社名】 Pathways Medical Corporation
【事業】 薄膜電気導通体技術を用いた
センサー付きガイドワイヤーの研究開発
【設立】 2020年3月11日

技術

極薄膜導通体形成技術
⇒ストローク・スマートガイドワイヤー開発

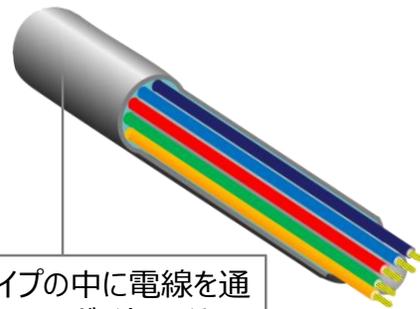
会社の特徴

- ガイドワイヤーなどの表面に極薄膜で電気的な配線を形成する技術、及びその配線とセンサー類との接続に関する独自の技術を保有
- 2019年にはセンサーを搭載したガイドワイヤーにおいて、初回臨床試験を完了しており、技術的フィジビリティが立証されている

減損損失の発生に至った経緯・内容

- 買収後、技術の移管や、試作対応など順調に進んでいたが、
⇔ 製品化の実現に至る過程で、技術的に量産性が困難であり製品化に適さないことやSENSOME社の製品への現実的な適用が困難なことなどが判明
- 昨今、その改善改良に努めてきたが、最終的にはその解決が難しいとの判断に至る
- 当技術がもたらす将来価値の見込みが立てにくいことから、減損処理を行うことを判断

従来の電気配線技術



通常のパイプの中に電線を通した構造では、ガイドワイヤーの基本性能が著しく低下する

Pathways Medical社の表面薄膜配線技術



表面配線は、基本構造を変える必要がないことや極薄膜での配線を形成できることから、ガイドワイヤーの基本性能が維持可能

Rev.1 Engineering, Inc.社

米国市場にて、インターベンション製品を中心とする医療機器の設計開発を受託

会社概要

【社名】 Rev. 1 Engineering, Inc.
【事業】 医療機器の設計開発受託
【設立】 2009年11月2日

知識

最先端のカテーテルなど幅広いインターベンション製品の設計開発ノウハウ

会社の特徴

- 元大手医療機器メーカー出身のエンジニアが設立した会社
- 米国市場において、様々な大手医療機器メーカーよりインターベンション製品の設計開発から試作対応に至るまでの業務受託を行う
- 当社グループの米国R&D拠点と近隣であり、連携が取りやすい環境下である

2021年7月
M&A

減損損失の発生に至った経緯・内容

- ・ 近年、当社グループからの開発案件の受託を行うなどしていたが、
←→ 米国金利の高まりなどから、主な取引先であるベンチャー企業の資金流入が悪化するなどし、その影響を受けてRev.1社への受託開発取引が近年減少傾向にあった
- これらの環境も踏まえた事業計画を見直す過程において、買収時の計画から事業進捗が乖離したため、減損処理を行うことを判断

課題分析と今後の対応

当社内部からの開発受託なども行っており、
研究開発機関としての活用は継続

トータルとしての回収可能性を高めていく

ASAHI Medical Technologies, Inc.社 (旧RetroVascular, Inc.)

プラズマ・エネルギーに関する高い技術を保有

会社概要

【社名】 RetroVascular, Inc.
【事業】 ライフサイエンス開発
【設立】 2006年3月27日

2018年7月
M&A

技術

プラズマ・エネルギー技術
⇒ **プラズマワイヤー・システムの実現**

会社の特徴

- 医師と協力し、PTCA治療における新たな治療方法やそれに適した新たな医療機器に関する研究開発を進めてきた
- PTCA治療のさらなる成績向上を目指し、電氣的エネルギーを活用した、プラズマ・エネルギー技術の開発にも取り組み、基礎技術を確立しつつある
- 最先端の医療情報収集・調査拠点

減損損失の発生に至った経緯・内容

- ・ 現在、プラズマガイドワイヤー・システムの開発は概ね完了しているが・・・
⇔ プラズマワイヤービジネスの事業計画を見直す過程において、買収時の計画から事業進捗が乖離したため、減損処理を行うことを判断
 - プラズマワイヤー・システム：2025年に国内における本治験を予定していた
⇔ 将来の事業計画を鑑み、その中止を判断
 - プラズマ・システム：ステントを使用した症例への適用や、石灰化病変への対応が困難であることなど、探索的段階で技術的制約が見えてきた
⇔ 現状の形状での事業継続は難しいと判断
 - より完成度の高い医療機器の製品化を目指すことで、販売開始に至るまでの時間を要したこともあり、臨床現場におけるCTO治療へのニーズは、当社既存製品（PCI ガイドワイヤー、貫通カテーテルなど）の改良と浸透により満たされてきたことも、その背景にある
 - 定量的な将来計画が見込みづらいことから、減損という判断をした

関係会社株式評価損・投資有価証券評価損

関係会社株式評価損・関係会社貸倒引当金繰入額

関係会社株式評価損、
関係会社貸倒引当金繰入額 **671百万円**

非連結子会社である3社について、第3四半期会計期間において、株式評価減及び親会社からの貸付に対する引当を計上し、特別損失を計上

- 非連結子会社である、レイクR&D株式会社、日本ケミカルコート株式会社、株式会社walkey（合併会社）
⇒売上高が伸び悩むなどし、当初想定していた収益が見込めないことなどから、計上を実施
- 当社グループ会社への技術的貢献
 - レイクR&D社：消化器分野や動物医療分野など
 - 日本ケミカルコート社：樹脂技術に関して

➡ **非連結子会社の今後の業績回復に引き続き努めていく**

投資有価証券評価損

投資有価証券評価損 **759百万円**

非上場株式について、第3四半期会計期間において759百万円の投資有価証券評価損を計上

- ビジネスシナジーを目的に保有している非上場株式の投資有価証券
⇒先方の業績動向に伴い株式の実質的価値が低下したものと判断し、評価減を実施

➡ **ビジネスシナジーがあるお取引先様の株式であるため、保有を継続**

本資料における注記事項

本資料に記載されている、将来の業績に関する計画、見通し、戦略などは現在入手可能な情報に基づき判断したものであり、リスクや不確実性を含んでおります。

実際の業績は、様々な重要な要素により、大きく異なる結果となりうることをご承知おきください。

【本資料及び当社IRに関するお問合せ先】

朝日インテック株式会社 経営戦略室

TEL 0561-56-1851 (Direct)

URL <https://www.asahi-intecc.co.jp>